

和書玉子巻 下

太政官文庫			
		八〇	和書
二	二	七	門
冊	架	函	號類

内閣文庫			
		八〇	和書
二	二	七	門
冊	架	函	號類

内閣文庫	
番號	和 8087
冊數	2 (2)
函號	182 471



原本の文字など不明瞭な箇所があり

秘本玉くし夢下

本居宣長著

金銀通用ハるのはよりて大に失の至へきくまつ

ハ金銀といふ物ハ上もなき宝にてハあれとも実ハ然

食の替りともならに衣服のろえりともならにすへて

何の用にも立ちたきものなるにこれを通用するハる

の何の用にもたたぬ物を以て世中の一切の用を弁し

される仕方なるれよりの仕方よりては失ハあるも

こそ仕方とハまつ外一に天下に通用するハ金銀の多

少よりて大に失あるへしは金銀を廣く通用する

予ハ慶長のころより始まれることよて予の以テハ
た茂のみの通用なりき然るに金銀通用始まりてハ
金銀ハ他分多きはと便利にして自由ハ宜しき之然れ
とも予れに付て又失ある事多く却て世上の困窮及
ふ甚ともなること之うくて尚時天下に通用する金銀
ハ殊の外多しして甚便利ハよき事なるに今の人ハ
もとよりうくのことなるを以て別たるれに金銀の甚
多きといふ事を忘らに便利の甚宜しき事を覚え
して却て世上通用の金銀の拂度よて得うたき也

世ハ困窮なるやうに思ふハ商人公にして未をのみ思
ひて本を忘らさるもの之今の世に金銀の得うたきハ
少きれにハあらにあまり多きよりたにれることなり
予の爲理ハいふといふに米穀をえしめ其外何よて
も万の物をえ引するもの正物をえ引するよりハ價
をえうりて金銀よてえ引するに格別な便利よきれに
昔ハ正物よてえ引したる事を今ハみな金銀よてす
るやうになり其外万の事みな金銀よてとりえうらふ
やうになりて次第に金銀のとりやり多く忘けくなり
そとりやりうけ引の事よなほ又さよさよ便利なる仕

方なとあるうやうは万物万々みな金銀にて万の合や
うになれるハこれ金く世に通用の金銀の甚多きうれ
之少なくてハいうほど便利よき事なてもうやうは廣
く何事にも用ひぬることハなりうたしきて昔ハ金銀
をえ引すること今よりハすくなく又金銀にて万の
多をええうらふ事もまれなりしれは人のこれを取ふ
かも今のやうは甚しくハあらさりしを今ハ右のぬく
世もはとりやり掛引去けく金銀つねは人の耳目は
ちうく親しく又金銀にて何事も解むれは人毎にこれ
を指んことを取ふかもむうしよりハ格別は甚しく切

なるよりて甚けうたきやうは是ゆる之甚しく至て
けうたき物ハこれを指んと欲する念も甚ものなるは
今の人の金銀のけうたきを愛ふるハ地味も多てけ
うたうらぬれくさく又何事もつきても金銀のたたら
き去けくいろいろたしきれは實はけうたくもありけう
たきよりてハ少きやうは又ふ之たとへハ毎年益前
と極月ハはより又格別は金銀逼迫してはいよいよ
けうたきハいうなるゆゑはけうたきとして世上の金銀よ
りすくなくなるはあらはれはハ遊をたく金銀をさ
へ二季ハおして働うけなれハはよりハ多きは却

て左振又右うたきりハ為よりも又やりひきまけく金
取いろうとしきうたならんや是を以て惣体金取の
うたきハ少なきねハあらざるをさとるへしそ本
を召ぬれハ実又ハ世上通用の金取を多くして自由
手まえるうら取りて何事ともこれを引ふるやうとな
り次第又えたらきいろうとしき方う勝也えはたたくて
きよりもなほいろうとしき方う勝也えはたたくて
すくなきやうと思はるるさして金取通用始まりてい
また久しうらさりしほとハ多けれハますます便利の
よろしきのみよてさのみを弊ハなうりしう漸漸年代

久しくなるよつきてハうの弊も多くなれる之太
せることく世止何事とも是を用ひて取引する事多き
ままたま取引の事よて過分の利をねる事多く或ハ
人なら物物の交易をもせすた金取のうへのみを以
て世を治る者もたひたたく人多ハ別してこれよ
りてまはは取留をせぬることあしおして金取のやり
引まけく多きね又世止の人のかみなこれなうつりて
士農工商にとくとく己う本業をハたたりてた近
るは金子く金取をねる事よのみ同をうくるならひと
なれりせよ少しよても金取の取引よて利をねること

あれは了れたけ作業を仁にたるれせ上の換へいえん
や業をえなされしてたた金銀の上の両にてせを換る
がハみな遊民にて遊民の多きハ必の故換なれハ仁の
つうらを上困窮の基となれり又せ上の金銀仁はくし
て便利なれハ人人買ましき益益の物を買ひ為まし
き益益の事を為なとするれ仁のつうらを長す
るこれらみなせの困窮の端となることとなれ又上は
の人ことごとく金銀のみ用をうくる也又今のせ
ハ武士も百姓もお家もみな都府なる者人かとなりて
せ上の風俗も煙為なるるるうしうくのことくせ上

通用の金銀を多くして自由便利なるにつきてハ其失
も甚多けれとも年久しく訓来りたる事なれハ此なら
ひハ依り改めうとし不便なる事すら久しく訓た
るを依り改めてハ人の改服しにくきものなる事とし
てこれハ甚便利なる事なるを今更通用の金銀を減少
なとしてハ尙分大にさしつうゆる事なと多くして却
て大に失あるへし且又金銀通用の筋なとハ天下のう
への事なれハいふほと害ある事とてもし一風きり私
にハいふともすへきやうなしと分れとも太の子細
ともをつねつねよく公に居て忠節正物にて是引すへ

きりハ少々不便利ニハありともやむり正物にて元引
をして金銀の元引のすちをハなるへきたけハこれを
省き後又さまたの金銀のやりくりなとをもなるへ
きたけハ他分これを止め又為へきり金を銀にて仕切
るやうのすちハ後更費用ニあらまほしき変えられも
民者にて下下とちの細変なとハさるるもあらへけれ
た少々金言にも及ふほとのもニハ変してあるましき
わさへ熱して物りハ不便利にて地及なるるもハ始終
全くして失なきものなるを算用ニうり便利ニはし
るときハ必万遠ひもいてき詐欺のすちもありやすく

思ひかけぬ夫のあらことなれハおの政をとりにん
人などハば和をよく考へてる事なるへきたけハ金銀
次利のすちニハうらぬやうにむらけむふへきニこ
うさて金銀のやりくり元引をハなるへきたけハ省き
て少なくするときハ自能とすこしつつも人情金銀
うとく運さるるやうにたりて面商の申業を大切ニせ
けむやうにたり金銀の面目をうけて近乃にほしる
ならハ少々つづもうすちきて人の都合なるが程為の
風儀も盡るへきものことうく下ハ上をえならふもの
なれハうやうの事も上のえならはせ計らひに盡へき

きりハ少々不便利ハありともやむを得ず正物にて金
を以て金銀の元金のすまをハなるへき。たけハこれを
省き積入さすまの金銀のやりくりなとをもなるへ
きたけハ此れを止め入るへき。金を金銀にて仕切
るやうのすまハ後更々用ゝあらまはしき。又人より
氏方よりすまとちのおまをハさるもあまへけれ
ば少々金さすも及ふはとのすまハ交してあるまじき
のさし敷して物もハ不便利なすまはたなるもハ此れ
なくして大なるものなる。金銀のすまハ便利はし
るときハ此れを以て金銀のすまハあまへき。やすく

忍ひうけぬ失のあることなれハ此の政をとり行えん
人なとハ此れをよく考へて万手なるへきたけハ金銀
便利のすまハうらぬやうにむけ玉ふへき。こ
ろさて金銀のやりくりをハなるへきたけハ省き
て少なくするときハ自然とすこしつつも人情金銀
うとく達さるやうになりて面々の本業を大切とせ
けむやうになり金銀のみ目をうけて近乃至はしる
ならハ少々つつもうすらきて人の鄙劣なるを難為の
風儀も並るへきものことうく下ハ上を忍ならふもの
なれハうやうのすま上の志ならはせ計らひと並へき

○秘本むく一巻下

こと一こそ

天下のため玉のため一害なる事せし多し中一実ハ
大ニ害あれとも害と見えざる事もあり又ここのハ益
あれともうしこニ害ある事あり又尚分ハ益あるやう
なれとも後日大害となることありこれら皆人の惑
ふこと之玉政をとらん人つね一公をけらるへし又玉
一ニ大害と忘れなうらも停めうたく玉君の勢一ても
公儀の威光一ても依一ハ禁止しうたき事も多く
ある之能る一その教を依一志ひて禁せんとするとき
ハ却て又害を生していうんともしうたき事もあるも

の之されハ害なうらも依一禁しうたき事ハつねつね
一公をつけて臣分長せぬやう一たうらひいつとなく
そろそろとこれを押へてたのつうらと止む時為を
つより外なし方の事ハ日一増長することと思ひの
外一又いつとなく兼へゆく時為もあるものなれハ
ならん事を急一して志らんにましき又玉のため民
のため一利益ある事を考へおしてこれをけらんとす
るも同じ事一てたとひ利益あるすちも新規一依一こ
れをけらんとすれハ人も後報しうたく又却て了こな
ひもお来ることあるもの之とよく人ハ久しく訓来り

○秘本おく一夢下

たる事ハ少少勝手あしき事も其分りて安し居るもの
之益ある事も新規なる事ハ煩えしく思ふならひなれ
ハ盛衰りたる事ハ少少ハあしくとも大抵のことハ
のまゝにて互へし新規の事ハ大抵ハまつハせぬうよ
きへすへて世中の事ハ何事もよきもあしきも時世の
勢よよろものにていうほど悪きを除うんとすれども
いらほと善事を行人とすれども極意のところハ人
カハ及ひうたきものなれハ志ひて急ぐこれを行人
んとハすへうらにたつねつね若事ハそのうたのく
つれぬやうに止めやうにえうらひ悪き事ハ少少つ

も消するやうに長せぬやうにとむりけさて又新規に
始めんとする事ハよくよく考へて人人の料算をもき
き代金の例なときも少合せ他人の復報するやせぬ
をよく勘へて行ふへしすへて新法ハこれを始めて
のため人のためにもこと宜しく未長く行えらる
ときハ後世までの功にもなることなれとも思ひの外
人も復報せられたりもならに或ハ思ひうけぬつまつ
きなとて長くハ行ひうたくしてほとなくこれを止
めなとするときハ却て費のみ多て未政のうろろし
きうしりをかゝることとえは分りし二き人の工夫しお

て大益あらんと思ふ事も爲て又ぬりハ新みやうなうぬ
 ものにて思ひの外賞物の料等のことくハおきりた
 きものなれハとくうくハ大抵もすまハ回きハ志たう
 ふハ志くハなしハ
 近來上下たしなへて内務困窮する者多きわけ又金の
 自給とうけらるべき仕方なと既上ノ中せらるぬし
 船れとも困窮せせりてハくハともすへき方なくさ
 しつまりたる時ハ至りてハ衣のこともくあるやうなる
 仕方よりしてハともさしあたりての所ハ合ひ
 うたきもなれハ左振の時にハくハとしてなりとも急ハ

今の世勢はひなきてハりなせに止下大小ともハみな
 同し何之に申ハ大急の取務等の急迫してさしつま
 りたる時の作難ハたハ町又百姓の金銀をめさるる
 近代世の道の子之船れとも是ハ止下も中せらるぬ
 志公なるらぬハ止下たしひ志ひてハれをめされても
 取れハ取則ある所なれハつは九カ左振して併こと
 ハあらハ始終のすまぬ事ハ大切なる所ハ政ハ取をつ
 けん可いハり又してハ残急なると之されハさしつ
 まりてやむに止を暇さるときハ家中の祿を年を限
 りて減止もすハり外の止策ハなしハ此當船のあたり

よへん但し此家仲伏止禁へつれもいつれもほとけ
と日先祖よりその祿を玉丈り以養ひたりて家をたて
代代妻子をたゞくみ家の子を扶持し來りたる一像一
子の祿を過分減せられたい一同は玉難受の玉り殊に
近年世上困窮の時甚し家仲の別して切つめたる祿に
て餘分くつろきもありよくきうへなれはいよし難
炭の人人多うらんに止まるといふとをしきりなれ
かなるへきた村小は可いなくであらまほしきものな
れとも土の地分今又つきたる此物入ともをもなるへ
きたけ省略減少せられえしえしくまてまて此子を

つめられてるのうへやむことをねぬときハは法より
外に作帳ハ多ましきことと加に近年は法を移ハるる
方方法玉多き之これ金くやむことをねさるぬの事
なれハもしはありとても必用えうらひを帳みま
るへきとあらはもし乱世にも生れあひたらんはハ從
いなる艱難辛苦もあるへきとありうたくも靜謐の
此代に生れて身命を金くし亂れきちらに安穩にせを
候る君恩を忍びなるのみうと忍びとりて志えらくの
難受をハ志のき玉ふへきとさてもし何ふともせよは
法を仍えれんは付てハたのたの祿の大小よりて減

○秘本おくし下

十

少の差別あるへき事勿論なれども上下に亘て御祿の
人人ハ殊よくつらきなけれハ迷惑をしうるへしは不
うへにうへにもれうへりみあるへきえさて又は年限
の内ニ是派とも此勝手の立なほるへきやうの算用の
つもりを志まり方且又年限残りて後の志まり方なと
うねてよくよくつもりあるへきこと之もしはつもり
の志まりあしくてハ年限の内此收納の過分多きう
くせよ成て年限残りたるとき又係り大に此手つゝへ
亘て数年此派中一同の辛抱もいたつらうなり却て
此勝手の過迫いやまさること亘へしうるとき又年限

を延られんハいよいよ上の事となく物ハくせつき
やすきならひなれハは年限の万此收納多きうくせよ
ならぬ報の作帳返に返にも行要たるへきよや
上と下との万志遠くして下の情態の上へとほりうた
く去れうたきりハ右へより後もよく去れることなる
う近代ハ別して大名の此身分殊の外に重要しきれよ
於ては衆ハ去しきとひは此をわづきて下の振子を
去らんと忍びても去しく知り玉ふへきてたてなし
前へおる人人とてまたた恐れ懐しむのみよて中中こ
まこまとしたること此咄し中上るやうの事ハなり

うたく一通りや上る事もたあたりにさハリを思ひ
きけんをあやふむねたた不測はを中さぬやうに
のなきやうのみや上て下の事ハたた宜しきやうに
法民ありうたうる振子のみや上てすこししてわ
ろき事をや上る者としてハあることをし是ハそ人の中
上さるうあしきハあらた上のためたもしくて
中上うたきやうのならえしなうあしきと同輩とち
の中にてすらすの人のわろき事なとハ少ししても云
よくき物なれハまして主君に對し奉りてハそえつ
の事者たる人ををしめとして右のぬくなれハまし

て下下の人ハいうほど同くあまる事の下にありても
重くや上るなといふことハ叶えぬこと之階級を経て
はは下下の上りハ中途にて次第に遠くゆくものを
れハ下下の事さまとゆくありのままたハ上へハとほ
りうたし學問をしむへハ出物のうへにて大抵下下の
役人の事民万の事もたはたたいの事ハ志るることな
れ尚時のにばうなる程ハ中中出物のうへなとて志
るることハあらた下下ハ上の事存しはりもなき事
尤のさまさあるとされかた出物のうへの一通り
の事を以てをうらひてハ思召に方とハ遠ふこと多う

るへしたとへの上はは深く下をいたたり玉ふれむ
ていささうもても民のいたみとならぬやうにとは
しめしても通利は下へはとほりたは玉の振子
をうけたまえるは下のええめらひの上のふるとハ
大にお遠することのある振子なりとやうの下のく
えしき振子の上はは存知のをけれはたは佐おされ
たる通りはやくとたはしめはなるへし又下より教
ふ筋なともとらくは中途にて滞りて上へはとほり
たきりちえこれらの上のあまりたもたもしくして
遠きおの失く小才のハ大急なとハさはとハあらぬ

こともあるへけれとハ大急なとは失ハ多きえ
大小の事何よりよき料等あらはたとハ種き人な
りとも少しも得ることなくやあるやうにたきもの
之れとも熱体た上のをたもたもしくするなら
ひして中中種き人なとハ政勢篇のことなとハや
うたきやうのならひして万一身分は過たることなと
を中おれハ上を種し去ひるなといひたてて却て
められ或ハ又よき料等ありて中おることありても傍
よりとやうく妨けて中おたうたく又何事でも一
料等ある事ハうならはすこしハさはるふもあるもの

○秘本むくし下

なれハ予のさそふ所よりこれを妨げなとするはと
申おたきも亦ても將りて此申おさる之況や君へ諫云
ふ申しきゆなとハ受して申上られぬこととなれり諫
云ハさてたき主君の一度任おされたる事ハ詞をうへ
して否られハとも申されぬこととなれるハあまり
たもたもしきならたして去しき政乃の妨之陸分
威を嚴重として下の恐るるやうすへきハ勿論の事
なれともうれも事より程のあるへきこととなく
此政勢につきてハ此衆へおたる人あまりと將り恐れ
此何事もうちくつろきてハ料考を申上るやうとし程

き故人をも近く召れて公やすく何事をも申上るやう
とあらまほしきもの之

熟体形はの事を立て行ふと必ひうけ以万遠あやまち
なとあれハ衆初と事申を申おして始めたる老の戒
として二れを答むることなれとも衆初より熟しうれ
とて始めたることとあらぬ必ひうけさるあやまちハ
是非なけれハ事老をとらむへき事とハあらぬ熟して
うやうの事えうらひもあまり上の事をたもたもしく
するうらあたらぬ事もあるとさて武士の風俗として
上へ對して申訳なき事なとあるとき切抜にるハ事二

とよいさきよくいあれたよろしうらぬならえしなり
実ニ死なてうなをぬるハ格別なれともそ縁さしての
忍ぶるもあらねたたいささうの一時のあやまちよ
りて大切なる一命をうしなひ父母妻子の歎きも殊
深うるへきをたもへハふいとをしきりて教えくハ
ならひをハ停めまほしき事なれハ先代も天下
同ニ追後殉死を禁せられたるぬくは切後の事も上
り付らるるの外ハ私ニ切後する事をハ堅く禁止せ
らるへき之後とても一時のあやまち忍びえうらぬ不
測はハあるまじき事あらされハさのみ深く咎むへき

ともあらねいささうの事よて一命をすつるよい及ふ
まじきことすへて少しの事よてもふよよりて切後
するならひハもと我々の風えさて又上の事をあまり
たもたもしく元極ふならひなるたす二しの不測はを
去ても身のたためやうよふふうらゑ思して何事よ
らに主君へ對してたたいささうの不測はありても重
くとうむるならひなれやすちよよりて大うたか上
り外よあやまりてせざるハ大抵の事ハ宥免せらるへ
きこやうの事を至て最極するも一切の事はてハ
あれとも今の世のならひをえれハあまり最よ過たる

二とも多き之
一五の政を八万の衆老たる人人を一致して元
をよく定めくり其統を以て次次下下の統役人まで
一五の法をのちらひみな一致するや乃ち至へき事
之統るに近來依五の統子をうけ玉えたる其統大衆なと
ハまつ衆老たる人々ハさのみ五内の政事ニまうじ
ハううはられにして次なる役人その元を定めくり
て元をうらむるとうやこれ宜しうらぬ事之何事
よら元の定めくり政勢のおる所ハ衆老たる人た
るへし整して重き所よりおたる事ハ傍上りも妨けら

たく下下の交る公持も格別にて法をまじ宜しきも
の之次なる人にてハ憚るところを以て法をのちらひ
十分ニ伸うたく又下の交る公持も遠ひて元をまじら
たく一致しうたきものもし一五の政事一致せし
てたとへハ二の役人の統とらし二の役人の統とハ
お遠して同じ一五内の政とも元元依本のおる所異な
らうぬくにてハ政事とりまじりうたしこれその本の
くくりの所のまじりゆるさうゆゑ之又うれりれうけ
とりたる役人をハ自分の身の上への事として他分
をへて働くへき事なるに其統の人ハ少なくてたた不

酒はさへなけれハよしとし又承役の内不調はなくて
さへすめハ役ハいうやうになりてもうまえに上りて
分のための用公をのみ才一として役差のための事ハ
又えに又さまたさまがある人の役の内よしき事を
しよきを始めたきなどしても主入役務までのはハ
そ役役の人ハ才一入てせ話もせぬたあまきえ
せてよきを始めたきたるう益なく又本のくくりハ
こままりなけれハ下ハ公公別別のやうになりてたと
へハ先役人の時堅く約束したる事も又うたれハ
役役の人ハうれを用ひたりの約束の事も云うたきや

うなるこれら大にあるましき事何ゆても役人
ハ下下のためハ殿振も同前なれハたとひそ人ハ
くたり務るとも前一度約したる事ハ変して
変えましきえつへてうやうの事とりままりなく
約束なとたやすく変してハたのつうら上をせしむる
えんたなりて命令なともたこなをれうたくなること
なり
せり同附といふ役あれとも於又法役人いつれも互
同附役を返るうよきえられハいうと云いまつ今ハ
自今の交代まへの役目をさへ勤むれハ他の役差の事

ハヨウウエラぬこととしてたとひ傍目ヨあまるほと
の浦ろき可或ハ不測はなるえうらひをする可ありて
上の取ためヨ下のためヨもよろしうらぬ可とハ又
うけなうらも承役美ヨあつうらぬ可ハたたるのまヨ
又て若ろえうり之これ不忠なることなれ左振な
るならひなれハ公ある人もせんうたなし能るむたと
ひ已うううえらぬ彼の役美のうへの可ヨもせよ宜し
うらにと思ふ可あらハ互ヨ公をうへてお助け又可ヨ
よりてハ早速ヨ申おるやうヨあらハこれ該役人みな
たうひヨ目附役となること之

熱して物をねることを見ふハ千人万人まぬうれうた
き人情のつねヨて本より能るへき理之れヨ付てハ
物を人のくるるを悦ふも又人情なるれヨ物を人ヨ務
りて志のほとをあらえれも本より能あるへき理右
今いつれの玉とても皆回し可之されハ万の可ヨの
お手の人を悦えせてそ可を成就せんとえうるヨ能
といふ物をつうふ可のあるもたのつうら能るへきい
きはひ之さて物をねるを悦ふハ本より人情なれハ
の能を交るもさのみ替ともいひうたし殊更は可せ中
のなへてのならいと成ぬる可なれハ吾人を保くとう

むへき事にもあらはれぬは此の筋ハ云ふ政の害と
なる事あり古より保くこれをいましむる事なれとも
とらうく止むたきものにして次第に増長し近來ハ
殊に云しき事ありられも主君たる人正しけれハさ
すうに身分をき役人ハ柱のつうらたしなむ事もあれ
とも下下の役人ハ上へハ志れぬ事をよくのみこみ預
るうへにたとひ万一志れても身分をろけれハ字をく
くりて保る事なく何事にもこれをむさほる之又主君
くるみと味きハ上中下をたしなへていよ云しき事
あり事申したとひたまたま塵直なる人立ても身分

の役受たりニそ塵直な此以外の防きハならぬ又
同様同をつけても多くハ手人くるみとはたしな
いるれと益あることなし懸体近きハ何事によらぬは
怨の行ハれさる事ハなくして公更訴訟に横しまなる
さ大きをなし刑罰にあたさる事多きなとハ申す及
たに主外法の作事善法なとて付てもはすちもつえら
行ハるること之れも少少つつの事ハさても互へき
なれ云しき事のみ多くしてすへて怨を多くつうへ
ハ手仕方わろくてもよしとして是をすまし怨すくな
けれハよくてもわろしといひて辨さぬそれ由云下

なる者もろ二を計りて考へき可きハ多く手ぬきをし
て磁をつらひて重可のすむやうとし又は度よりむき
たる可を伝る者も磁をつらへハ尺ぬふりをして是を
咎めさるれハ磁を行ふて取可をなれ者もせよ多し程
以外もはすち一付てハ種種さまさまの正しうらざる
可多くしてことごとくハ挙るよいとまあは餘ハた
しえりて知るへき之十へて世中ハは箱盛人なる可
取一たのつらら必政正しくハ行ハれうたく又上ハ換
失ある可たひたたく下も換害多したとへハ金
千兩入へきところをも役人へ三百兩磁すれハ又百兩

にてすむ可も二下も二百兩の位あれとも上ハハ
百兩たけの可の換あり或ハ又百兩にてすむへき可も
磁をせされハ七百兩も八百兩も入りて重二百兩三百
兩ハ振及へぬけ行やうの可も取て上も利なく下も
ハ大換ありてあまつさへ上を根みなること云しされ
ハ必政の大害下民の大害は磁よ過たるハなし志うれ
た上と下とハ云遠けれハ了の吃味もとろくは行とと
きうぬる可なれハこれを止るはハまつ磁を取者を禁
むるのみならんこれをつらふ者をきひしくいましめ
て何事よらぬいささうでも磁をつらふ者おとる

るに於てハ急度曲り申付へしとの旨をつねつねふ
れられたるもし犯に若あらんハ一人二人きひしく
咎められなとせハつうふ若ハ勿論にてとる人もたの
つうらきみわろろへし上の制禁ならんハこれと
つうえぬを懲ることもしせしるもろも極ハつうふ若
ハとうなくして罷ハ死若ある事なれハ死若をの
み制してハ止うたけれハつうふ若をいましむるも一
つの権及なるへき也
公度所託託ひ事以咎め筋などの託子く併してもよき
ことハ他分なるへきたけ子く併すへき之をほさりに

して一日もすてたくへき也あらん下にてハ越して上
へううりたるすちの事ハいささうの事にてもお誂ま
てハ去を劣する事にて殊に更しき若なとハ家業も
係り系迷惑なる事なるふ上うまふ事なけれハとて
なほさり申すて並て長引するハいとかなき事又所
託よりきらん万の事と控門ううりのすちハ死さたく
及人の去迷惑なるものにてこれ大なる玉政の妨とな
る事ありされハ何事よらに控門の威を以て押はる
ハ又下下まで主人の権威をふるひて無理服及のふる
まひを促ましき方為よきひしく制せらるへく又徳役

人いささうも控門を怪りて不正の判形なとをなれま
しき方を命せらるへき之は多し右より吳国にも本
船にもつねあるならひて後にもよく合点ハしたる
ことなれともとなく止りたきもの之
刑ハ他分由るく難きうよき之他し生てたきてハたえ
にせよ害をなれへき者なとハころにもしき之さで一
人よても人をころにハ去るきよて大抵の事なれハ
死刑ハ行ハれぬ定まりなるハまことよむたき所
事之能るよ近來ハ變してころにもしき者をもその
吃味のむつうしき筋なとあれハ毒菜なとを用ひて病

死としてその吃味をすます事なともせよハ多しう
けふハるいともいともあましきこと之又盜賊火つけ
なとを吃味する時受えなき者も拷問せられて苦痛の
多しきよたえにして偽て承之と白状する事あるを
白状たよすれハ去るをハさのみたたさハ其者を犯人
として其刑ハ行ふやうの教もあると云是又去あるま
しき事之刑はの定まりハ宜しくても其法を考るとし
て却て難ししく人をころに事ありよくよくつつしむ
へしたとい少々はハえつるることありともとうく
情実をよく勘へて難むる方ハ疑なうるへしさて又吳

ふよてハ怒リヨまうせてハみたりヨ死刑ヨ行ハ貴人
といへとも今叙もなく是刑ヨたこなふならひなるヨ
本邦ヨてハ重き人ハろれさけヨ刑をもゆるく尚らる
るハこれ又ありうさきゆり
何ヨても先規ヨリのはをうるといふハ天下一同の
事ヨてまことヨよろしきことハ然れとも近來ハこれ
をうるといふハた名えうリヨて実ハ大ヨくつれて
其法の本意ヨも背ける事のみ多し又法ハ法と立たき
て其法をよけてさハラぬやうヨ致変をなハ若多き
をたたはたヨ立ハいうはと致事をなハ若多てもとろ

めさる事ありたとへハ笑ふをこむれハかなむさる若
もぬけををして通れハとろむる事なく其笑をさへ教
されハ尺のうにやうのことあり万の事ヨは教たはし
但し若定まりたる法も年代久しくヨつり世のもやう
のうたれるヨつきてハ今ハ其法のぬくならすも害な
き事また其法のちりうたき事なともあるをハ大同ヨ
見あるしなうらもひたすら先代の法を廢せん事をハ
得りて其法をハやたり法と立たきて背りさるやうヨ
するハたのつうら本邦のあつき右意ヨうなひて宜し
き事なれハ其事の筋ヨもよるへきもの

○秘本むくり番下

近來、上より命令ある事をも下よりハ出る事もあ
てこれを知らざる事多く又志ハらくハ出る事もあれ
ともほとなくうつる事これもあるまじき事之一度後
付られたる事ハ長く堅くこれを知らざる事やうにあらされ
ハ政乃立ちたし猶も下より命令は成の立ちたき
ハいらなる故といふ上より命令ある事あれども
ただ一通りこれを編後成の成りて命令を知らざる事
らざる事の咄味もなき犯れ若ありても咎めもなき故
にやふれやれく志まりたく又上にも下せるぬく急
度約束する事もたちまち変し或ハ重き役人の後文は

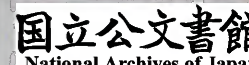
とさへ及古となりてやく下たたはすへてやうに下
に對して上の伝なき事多きときハ下民も上の傳せを
つつしまはれたのつうら流しむる公できて命令をもち
らざるやうになる事又すへて命令の振ハことごとく
成程のつみたる事あらされハ下の公のつ後振せぬ
ものといささうも上の上の勝手もまうせてむならさ
る事のまじし事ハうたへこそ成勢にそれて振せる
やうなれ内内にてハあさわらひて中中後振ハせに
やうの事も上をうろしむる端となる事なれハよくよ
く公にへきこととさうく下の上を恐れにうろし

○秘本おく下

止四

むる公のあるハ第一に宜しうらさる可し
近來諸大名方拜謁不足なと多きに依り
いふ役人多くある可しこれハその領分の内何事
らに内外物入のすぢに公をつけて随分お
けハたふき或ハ法事集用工夫をつけて物入す
く費なきやうをせらるへき役としてそれハ
むなること之れに依りて役人の根子をうけた
まハるは役人ハたたいろいろと働きて金銀の
工面をするをといめとせりさてそれハ考ら
金銀をねる工面の事なれハなほは町人を
お手とねること左武士うたぎの人

してハ手おさるしうらされハ商人公の金銀
やりくりと功者なる人を急らむ可し下をいた
える情懸の公たとはなくいふやうにして
なりとも尚分金銀を多くねるを働きとし
て近日の大害をもちへり又ハ君の恥辱
辱をもおえんひたすらに利をむさほる
商人の如し然るに上役の人々ともま
つさし尚りて金銀の手まハりて用
の違はるる尚分目前の功なる可し
これを賞するうらいづくてもはす
ちの役人ハすらすらと立身をする可
して大うた尚時ハはれ縁手をえたら
くハ一の政勢のやうに成て金銀を
多くねるハ敵を切



元たらんぬくの功となるふもありとやうけ玉ハる
折うやうと當分の用を合さんためえうりて君の用
威光をも換し本政の妨となる事何と付ても多くハ又
下の上を恨み奪ふことも去しく木のつうら上をうろ
しむるをしたなるハいととなけうハしきことなり
然りとはいへともまことと用務系大とさしつまりて當
分のまうなひもお來りたき時と於てハまつ金銀を以
るにあらされハさしあたりていつとも作略すへき
やうなけれハ九折の時ハ此働きを重く賞するも理の
當然又これを傷くも時と察みての大功なれハ全く

るの人をわろしとへふへき事ともあらはたたわろき
ハ九折と用務系のさしつまるやうとならうわろきを
れハとろくろの本をよく味して徳をふかやうと
つめてなりとも物入の少なきやうにして是れとも
收納して何事もいと足るやうとおえたらうを所要
なるへき
いつれの用大なるも益の事と永永扶持知行を玉ふ
事には苦かいつれも用務系ゆるやうなりし由え
さしてもなき遊藝の事にとりて九折と用務系を多く
玉ひて代代扶持人となれる者多ければこれらハ益

益の費人儒者医師のたくひもその時とすくれたるを
忍らみつる抱へらるへきハ勿論の事なれともいつれ
もその子の代となりてハ学問も藝も大にたるともその
にて殊に身と福あれハ家業もたにたりて多しハ用
もも立うたく福にほけれハ身分にもたもしく成て殊
更業をハたにたるくそ外雜藝の業なども用あらハ
時時と抱られて少少つつの福をむむんぬハ大に
の用身とてハ随分さも成へきことなれ一たい抱
へられたる若ハ何の用もなきと永永へたつらと多
くの用扶持をむえりて退け若江戸京なるともむむ元

とも多きハ悉しき套の費えずへて何の職も福をせせ
しはるハ本物の古格にて厚き風候にてハあれたりの
筋ともよるへき事之能れとも久しく成りたる事の
依り改まりてハ大に難哉と及ぶ若多けれハ衣の教と
ても用先代より成りたる分ハ今さらち忍なく福を
めしえなたるへき事とあらはされハ衣振の事ハ随分
用利とも立やうとすれりれの家の名をお精しおえけ
みて了のるるは以上へ形加の人なくて用万の合やう
とあらせまほしく狩又りの藝すくれて某家の用内の
主人と使へまても名をあくるほとともあらハ殊更ち

初て至へき事之
武士の兵術軍法を才一にむくへき事ハ今さら中
及えされとも今迄平の代久しくつきたること
なれハはも術も実用をこころみぬれ人ハ一人もな
けれハたた家教に傳えりたる通りを學ひならひてそ
上ハたた面面の工夫のみなるうろの工夫とても実
これを試むるにあらされハ畢竟みな空擧之されハそ
の同じ空擧の中にもたたる理のあたるあたらざるを
うりをハ考へてしてとろく実用の本をむくへき之
さて又時代のうつるにつきてハ世中のもやう入の氣

變なともうつりたるものなれハ考の法のみ
ハ今ハ宜しうらざる事もあるへけれハ其時代時代の
世中のもやう人の氣分などをよく承へて昔の法をも
これに引當て考ふへき之さて又もろもろの武術も治
平の代にハ実用なることなき由忽ちたほくハ華法と
ハふものにして況分のよるしきをよきこととして巧
拙を定め実用の巧拙をハ必ハさる事多し予を學ぶ
もたた日的にあたることを證とし強予をひくるをのみ
はしと取は二つハいふも予の所要ハあれとも實
用ハあなうちこれらのみにも限るへうらにそ外にも

敵をうけたるときふせくも攻る事もこれを用ひて
利方にはあらんやうを考ふへし又るを益とてもた
るゝたゆりいふはとよく察ても実用は益すくなし
たたる止りての働きをかくへしりも察はとの人ハ
今の火消などのぬきたた下知をりをしてすむもの
と必ひても大に遠ふへし軍出を見てむらしの言上の
働きを去るへきへて武術を勢有するゝハ何よ
ら派みなは公うけ行勇たるへきへ
武乃軍術のためはとく軍談の由を為為見るうよ
きへそれも源平盛衰記太平記などの教ハたもじろく

ハあれともよ厚と時代ふるきもよ近きともやう
の遠ひたるも多したた足利の代の末つうたの戦のや
うをよよく考ふへし殊に織田豊臣の由時代の軍ハ古今
にすくれてたくひなく功著なるもの之大うハ武士ハ
つねつねの時代を立てうの戦の中をましり居るが
持となりて武乃をハかくへきもえさて唐土の通俗
の軍出をハえて益すくなし必の揮振も大うたりは
代も遠けれハ万にあえぬものみ多しうの由の古への
名も成の天利を助たる計策なと今の人を利ひてかや
すく欺るるものゝあらはを外すへて唐土ハ軍談後

○秘本かくす下

九九

論なとハる程をつくしてむよすえを功若なるやうに
又由れ成実用よ直てハさやうにもあらん軍の仕方ハ
此方の近代よりくらふれハ大きよつたなし然るを世人
のかう唐土といへハ軍の仕方ハ格別よ妙なるへきも
ののやうに思ひ又殊の外大風と公認それよ直して軍
勢も去大軍なるへきやうに公認て木ち恐るるハみな
大なるひうことへまつうの風をひたすら大風とのみ
をゆるも科管遠ひありをたハ風の廣さハへうにも去
廣さよりて日本の大陸なとよりも過たれとも然れ成
日本よりくらふれハへつくもいつくも空倉の地多くし

てひろさおさるハ田代も人民もすくなく物成もいと
すくなけれハ軍もさのみ格別の大軍なることもなし
これみな世世の去のせたるうの風中の戸口の殺軍
勢の殺なとを又てもよく直らるることへすてよ直後
大濶朝鮮所征伐の時唐土よりの加勢の軍なとをよ此
方の人ハ或ハ又十百万なととすて木ひたたしきこ
とのやうにいひふらしつれとも大なるお遠よてそ時
の軍兵格別十萬にも過たることハなしそれほとこの軍
兵も大抵の事よてハうり僅しうたくていろいと去
後をよきてやうやうに僅し直たるところ去のことく

なりしこれみな人の玉の出来又えたる事さてう
の時の戦ひハ試方にも小西のぬき膝痛神のつきたり
し流もありつれハこりまれまれハ員軍もありつれ
九振のききおちたてセハ始終毎季十分の縁たるへ
しさて加蓋主計政友の蔚山ニ箠城せられしとき
のあふ揚鍋々軍たち軍はハ古今ニ比較なしといふは
と美をなりし事にて朝鮮の諸人たろき感してたの
もしく思ひ候ひしうた之しく攻てつひこの城を落
にことあたえにあまりつあへてハ行長う後詰一切
立られて戦の子をちらばうぬくとるものもとりあへ

に承先とと逃去りしハあさましうりける事振なりき
すへて度土ハ何事もみなうくのこたくて後論は樹
バいと巧い少われた実用玉くハさもあうさる事
一事を以てもたしえうるへし殊この蔚山の城を攻
し時の軍ハ度土朝鮮の全力をつくしたりしよし
の玉の出来又えざるをそれさへ太のぬくあさましき
攻軍に及ひさりしをぬふへし又は方戦玉のころ西玉
辺のあふれ若とも度土へ流りて濫放狼藉せし事
代の出来多く又えて倭寇と称して殊の外に恐れ毎
度大に事あまりて静めり收玉中の大騒動なりし事

之これ試方にてハ世の人も一向志らさりしほとのも
にてたたわつうのあふれ若の志わさしてあしすらう
のふにてハ世のこしく毎度大きな強きなりしこれ
を以ても世の軍はの拙く弱きを志るへし然るを
例の度ひあきの儒者などのひたはらうのふの軍はな
とをほめあけ言ふりて武士をたはハいとをうしく
うたえらいときり之吾日本ハありうたき神威の後の
美重なるもハ中世に及ハ世の殷富田地人民の志多
きこと外世のうけても及ふところあり殊更此為
代天下徳ふの蕃殖の盛大なる今たとひ武後ハ少少に

こたりむといふともなほ堅固なれハたとひ彼のい
うやうの大ふより寇賊来るといへともさのみ畏るる
ハたはらむめむめすたちなとすへきとあらはこれ
又武士の志に公は若るへきことにて西世方ハ中世に
及たは何方にては海面を交たるふふハ後世に
んて天下の大名たちの朝廷を深く畏れ厚く崇敬し
たりむふへきすちハ公儀の所定めの通りを守りむ
ふれり勿違ふゆると朝廷ハ今ハ天下の政をきこ
しめはことなくたのつうらせ万と遠くましまはら
し後にも公ハ昔きりハ存しなうらもりふれて自

徳と敬畏のすぢなほさりなる事もなきにあらん
朝廷ハ神代の初より殊なる子孫ましまし
て是の王の比數にあらん下万民に至るまで
別ありうたき及理ありは別を委しく中せる
ぬくされ、一玉一穀をも治め玉えん方方ハ殊
さらば子孫を以て公に志めて怠れ玉ふまし
き事之に二れすなむち、大將軍への第一の
忠勅之いうこと中は、大將軍と中なるハ天下
に、朝廷をうるしめなる者を征伐せさせ玉
ふ事職にましまして是を東照神代祖命の
以成業の大業なれハ之さて又、以武運

長久の領内上下安静五穀豊登の事行移
もこれに、たる事あるへうられその子孫ハ
朝廷を長れ事なり玉ふハ、天照大御神の
大御公に叶ひ玉ふ事にて天照神祇の
以加護厚らるへけれハ、世の学者た
た漢流の及れきのみ説ては子孫を
忘らさるうれ、今とさらば取ハし中
に、水戸西山公の格別、以志厚ら
りし事、大日本史を修撰し玉へる
事、其の大本を弁へ玉へるは、誠
に、其の良なる殿のお玉へりし
もひとへ、神代祖命の以盛徳の
録、天照

○秘本おくり事下

大正神の御えうらひはへはらへたふとくあるた
き御身之能れハハ大方御自身の御公はハハ及
ハハ御家中の人人才て口も試子細をよく作はされ
つねつねお懐みて 朝廷を畏れ奉るへきやう又公卿
官人たあは御祿にそ授けれはとほと口官職を帯て
皇朝に志さしく仕奉り玉ひそ奉る御礼典をせ執行ひ
玉ふ人人なれハ貴き御方方ハ中は及ハハ末末の官
人流口玉もまでもほとほと口厚く教礼を加ふへき御
身之その祿うはく身分の祿きをあなとりてあなうし
こ非礼あるへうらはたとひ祿き人よても官人ハ 皇

朝口仕へ奉る人之能る口今の世大うた尊上の御方方
をハ厚く教はることなれた地下と中は友人流をハそ
の祿うはく身分の祿きをあなとりて物の教とも思え
ぬやうなるいとあるましき御之祿のうはきハ乱せ
口みな武士口奪ひえられたるれ之されハ公あらん人
ハは御をよく思ひわきまへていよいよ大切口存はへ
きこととく
天下の神社ハ古へハはとほと口 朝廷より祭らせ玉
ふ御身て諸玉の小社までもその玉のうけ玉たり
て祭られし御なる口今ハ天下の御 大將軍家の執行

ハセ玉ふ代にて法玉の神社の所
朝廷よりハ
力及たせ玉てねハ玉玉を治め玉ふ所方方のねんこ
ろ日祭り玉ふへき作事之能る日中比久しき兵乱より
りて天下の神社大荒廢し祭典もすたれ或ハそ社所も
なく絶えて又存在せるもそれと分れなと熱して社
社ハいみしき衰微なるを治平の所也よりへりてハ
再興ありしもあれとも猶あまねくハ所手の及ハさる
りや今日至るまですされたるままなるう多きハいと
もいと多うとしき事之今時熱体大名の領内の社を
祭り玉ふさまハたた我玉の比の風にてたろそかなる

事之今の世玉家の祭場法大名の盛大なる勢を
ハ神社ハいさほど興立し玉ひても宜しき事なる日社
玉の実より似て神社の衰へたる事ハうへにうへに歎
ろハしきこと之そもそも社を敬ひ祭る事ハたれもよ
く知りさる事ハあれとも中ことの及の根本の子細
を志らざる故日世人の必ふところハ猶志たろうう之
別是日玉子細ハ悉しく中せり今うくめてたき治平の
所代久しくつづける日付てハ大名方ハいよいよ領内
領内の社を眞立し厚く祭り玉ひ殊日或内の社を
ハ所自身もたりにたり所系訪あるへき所事之殊日又尾

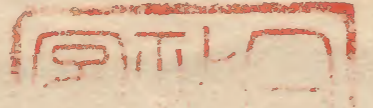
○社本むく一節下

張曰熱田大神紀の云く日新天皇の妻大神お雲曰梓葉
大神主大神などの御事外もろやうの殊なる由緒まし
中比大神ハなほさらそ御主御主の太切に厚く敬祭し
玉ふへき御事之むろし神祭なりし地も中比の兵乱に
みな奪ひ取られ玉ひて今ハ大名の領地となれる不多
けれハうの御真加のためえろりにもなほさりハ
ましき御事之そ外御武運長久の御ためにも玉内安全の
ためにも又穀獲豊のためにもうならん神を厚く祭り
玉ふ御政にあらまほしくなんさて又御内村村の産神
城下町町の神社など御主より祭り玉ふ御事との神社に

ハあらん御命令をおされてそ御下の神社を御分大切
にいたし神事を廉賤に御祭ましきよしをつねつねね
んころに示し玉ふへき御事之終るに當時ハ悉して神
社神事などの上の御扱ひ悉たろそろにて村村町町の
神事などハ御令のいさつらるのやうに御終てこれを
押へ終くすへきやうにいひつけ下下にても神事ハ物
入多きハ益蓋の費のやうに御終る者もあるハ皆悉し
きひろこと之何事も神の御めくみ御事りもあらてハ
迄にましき御事ハなし困窮して若しくハいよいよ神をハ
厚く祭りへきこと之終るをせに儉約といへハ中つ才

一、は神子或ハ先祖の祭より省略せんと欲するハいふ
二、その折今世上一同二次才次才三舞美となり舞長し
たることをなれハるれは准して神子をも次才三舞美
丁寧すへきハあさり中へ之已う身分のみ姿をまし
て神を祭る事ハまさけしてはいうう之たとひ身分
の事ハ昔よりへして万を省略はとも神子のみハ次
才三加へますさんころ本意ならめ又神子ハ風流儼優な
ときなし或ハ酒を飲み樂み遊ぶを舞益の事と云ふも
大にひうこと之神子物を供して祭るのみならは人も
同じく飲食し面ふくまきはしく樂しみ遊ぶを神ハ悦

ひ玉ふこと之これらの子細ハ通例の学老又神乃若な
とも愛も忘らさる事にて世習大に料簡遠ある
事之熟して世習の人の「き料簡」と云ふハみな度儀の
理屈なる故に「中」ハまことの乃理よりなえさる事
も多し其主なる所方並に役人中なとも玉のためを思
ひて「災害」にさらけ凶変をく上下た「安全」を榮えて長
久ならんことを教ひ玉ハハこれらの根本の玉のむら
け大切なるへき事なりこそ



秘本玉くーけ下終

○秘本玉くーけ下

嘉永二年五月

座 摩宮稅部

蘆園藏

